

共同募金・社会課題解決プロジェクトに参加しています!

ピピオ子どもセンターは、今年度も広島県共同募金会が実施している社会課題解決プロジェクトに参加しています。同封しております郵便局の振込用紙を利用して、広島県共同募金会に募金して頂くと、広島県共同募金会からピピオ子どもセンターに助成金を頂くことができます。実施期間は、平成26年1月から3月末までです。広島県共同募金会の社会課題解決プロジェクトの詳細については、広島県共同募金会のホームページ(<http://www5.ocn.ne.jp/~kyobo34/>)をご参照ください。継続的な子どもたちへの支援を行っていくために、引き続きご支援をお願いいたします。

~ピピオからのお知らせ掲示板~

● 寄付等のご協力ありがとうございました

コストコホールセールジャパン(株)様、国際ソロプチミスト広島-もみじ様、小野塚様、上川様、杉野様、西田様、井上様、末田様、檜山様、松本様など多数の団体や個人の方々から寄付(金銭、商品券)を頂いております。日々の子どもの生活やより充実した自立支援のために活用させていただきます。この場をお借りして御礼申し上げます。

● 生活用品の募集をしています

NPO法人ピピオ子どもセンターでは、ピピオの家から巣立つ子どもたちへの生活用品(家具家電含む)等の提供を行っています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

平成25年12月末日時点の会員数

正会員 (個人)	93名	正会員 (団体)	5団体
賛助会員 (個人)	60名	賛助会員 (団体)	2団体

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号 NIDIビル202 那須法律事務所内
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629



JaSPCAN信州大会に参加しました

新年明けましておめでとうございます。

日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN)が2013年12月13日、14日に長野県松本市で開催され、ピピオ子どもセンターから6名が参加しました。

初日は落合恵子氏の特別講演「いま、いのちから…虐待を受けている子どもに明日まで待て、とはいえない」や国際プログラムとしてチェルノブイリの医療支援、小児科医から見たイラクの現状などの講演が行われました。

二日目は多数の分科会が行われました。子どもシェルターでも例年分科会を持っており、今年は京都の子どもセンターののさんが企画・準備された「子どもシェルターの拡がりから見えてきた共通課題と地域性」と題する分科会を持ちました。分科会では、法人内社会資源の差異や人員体制、児童相談所や家庭裁判所などの関係諸機関との関係などについて、活発に意見交換が行われました。

JaSPCAN開催中はピピオ子どもセンターのパネル展示も行いました。



会員の皆様へのご挨拶～第11回～部谷耕治

新春に当たり、謹んでお慶びを申し上げます。

ピピオ子どもセンターの活動は、親から虐待や家族間の不和など様々な理由で帰る家をなくし、行き場を失った子どもたちを迎える所を創ることであります。

その願いは、平成23年4月11日に「ピピオの家」を誕生させ、今年で早3年の歩みとなります。この間、私たちの活動を温かく見守ってくださいます皆さまの御支援の賜物に心から敬意を表します。また、スタッフの御指導や役員のためめぬ努力に賛辞を贈りたいと思います。

ピピオの家は、傷ついた子どもたちが立ち寄って、こころを癒し、笑顔と輝きを取り戻して、生きている喜びと希望を胸に巣立って行くことを願って活動を続けています。

ピピオの家で過ごし、巣立って行く子どもたちは、これからの人生を築いて行く時、きっと大きな財産となることでしょう。

これからも、この成果を糧に子どもたちと共に夢と希望に向って歩み続ける中で、初心にもどり、熱き愛と清き誠を持ち、ひたむきに努力を積み重ねて行きたいと思っています。

みなさまには、変わらぬ御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

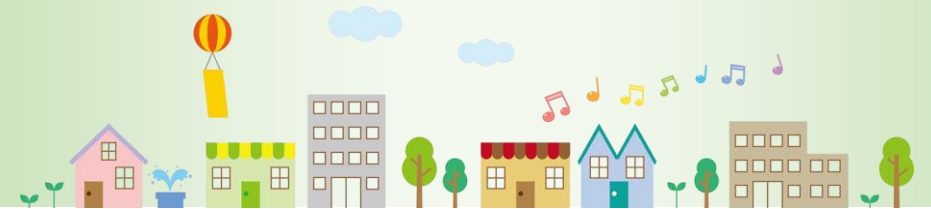
NPO法人ピピオ子どもセンター 副理事長 部谷 耕治

～ピピオを巣立った子どもたちの声～

これまでにピピオを巣立った子どもたちの声を紹介しています。今回は、昨年4月に巣立ったHさんから寄せられたメッセージです。

毎日お腹すいたら暖かい手料理が食べれて、困った事があつたら忙しいのに話を聞いてくれたりしてくれてとてもいいスタッフさんばかりでした。

またピピオで暮らしたいです(笑)



＝スタッフ通信 第4回＝

「ピピオの家」スタッフのKです。「ドキドキ・ドキドキ」し、初対面の方との出会いが多く、「どうしようかな・・・大丈夫かな」と、当初不安を感じていた新スタッフです。

だから、子ども達が自らの荷を負いながらも、自分でピピオを選び、再出発しようとする気持ちには、前に進もうと、よくぞ決心してくれた、しっかり応援しなければ、との自分流の思いを持ちました。短期間の中でどこまで力になれるのか？この出会いを大切に、まずピピオで気持ちを休めて、ひと息つきつつ、次のステップへ・・・。

スタッフは生活の中で「自分の気持ちが話せるように」「自尊心を大切に」配慮しています。そして、時期を見ながら自己肯定涵養のために体験、学習、趣味の伸長、社会生活をするための知識など、教材等準備し、本人のやる気・その気を皆で連携して、一緒に取り組もうと心がけています。

また、初めてボランティアさんとご一緒した時、自分の取越し苦労であったことを知りました。継続して下さっているボランティアさんが多く、皆さん子ども達により添って接して下さっています。いい形だなと感心もし、有難く思います。

ピピオの家に入居してくる子ども達には、「色々な人がいる」「色々な人であっていい」「人って満更でもない」etc と味わいながら、人と繋がることに興味をもってもらえれば幸いです。

これからも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

シェルターネット全国会議in福岡に参加しました

2013年9月14日、15日の2日間、全国の子どもシェルター関係者が一堂に会して交流する「子どもシェルター全国ネットワーク会議合宿」が福岡で開催され、充実した交流がされました。

会議では、既に子どもシェルターを開設している7つの法人をはじめ、開設間際の和歌山と札幌、開設準備を進めている5か所の関係者など70名以上の方が参加し、各地のシェルターの実情や抱えている困難さなどについて報告し合い、議論されました。また、今回は、7つのシェルターの職員も参加し、職員同志の意見交換の場ももたれました。他のシェルターの話聞き、同じような困難を情熱と工夫で乗り越えていることに智慧と勇気をもらい、また私たちの取り組みを見直す場ともなり、大変充実した2日間でした。さらに、2日目の全体会では、特例を勝ち取ったもののお実情に合っていない暫定定員制度の改善に向けての具体的な取り組みも話し合わせ、ネットワークの力を感じることもできました。次回の合宿は、2013年12月にシェルターを開設した札幌で行われることになりました。

子どもシェルターの取り組みが全国に広がろうとしていることを実感しております。今後とも、私たちの取り組みへのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。